



社会福祉法人 横浜市社会福祉協議会
第2層生活支援コーディネーター連絡会

はじめに

平成 27 年度の介護保険法の改正により、生活支援体制整備事業が開始されました。その推進役として生活支援コーディネーターが全国的に配置され、地域ごとに様々な取組が展開されています。

横浜市では、平成 28 年度から第 1 層・第 2 層の生活支援コーディネーターが配置され、本格的な実践がスタートしました。地域ケアプラザ等に配置された約 140 名の第 2 層生活支援コーディネーター（以下、2 層 Co）は、身近な地域の専門職という強みを生かしながら、横浜市の生活支援体制整備事業の目標である「高齢者一人ひとりができるることを大切にしながら暮らし続けられるために多様な主体が連携・協力する地域づくり」を進めています。

横浜市社会福祉協議会（以下、市社協）は、17 の地域ケアプラザ（平成 30 年 3 月現在）を運営しており、17 名の 2 層 Co が中心となって生活支援体制整備事業を進めています。また、市社協が運営する地域ケアプラザの 2 層 Co 連絡会を設置し、情報の共有や課題の検討、自主研究などに取り組んでいます。

その取組の一環として、平成 28 年度以降、2 层 Co の活動の見える化を進めてきました。

一ヶ月ごとに自らの活動や動き、地域の変化を記録するとともに、定期的に内容を共有して、それぞれの取組に生かし合いながら実践を深め、平成 29 年度は、一ヶ月ごとに行ってきた記録と共有を一步進め、2 層 Co の取組を事例集としてまとめました。

地域に根ざした取組は、見えづらい側面があります。この事例集は、日々の地域の中で、2 層 Co がいかに考え、住民や行政、関係機関と連携して取組を進めているかを実践における大切な視点や場面ごとに見える化し、まとめたものです。

事例集を通じて、具体的な取組がより多くの関係者と共有され、横浜市における生活支援体制整備事業のさらなる発展につながればと願っています。

社会福祉法人 横浜市社会福祉協議会
第 2 層生活支援コーディネーター連絡会

目次

はじめに

Case 1 職種連携

ケアプラザ他部門との協働	3
--------------	---

Case 2 住民主体の地域づくりの推進体制の構築

共助力アップ！～いざという時に助けあえるまちを目指して～	5
------------------------------	---

Case 3 社会資源の開拓

①買い物について考える会～困っている人にできることをみんなで考える～	7
------------------------------------	---

②「おもい」を「カタチ」に変えていく～マンション内でみんなが気軽に集える場を！～	9
--	---

Case 4 多職種とのネットワーク構築

目指せ！民間事業所と取り組む地域支援～共にwin-winの関係～	11
----------------------------------	----

Case 5 サービスBとの関わり

通所型サービスBと地域の縁結び

～戸建てを活用した地域福祉交流スペースの取り組みについて～	13
-------------------------------	----

Case 6 地域アセスメントのあれこれ

①社会資源及び要介護認定者情報のマッピング	15
-----------------------	----

②単位自治会ごとの現状把握	15
---------------	----

③単位町内会での住民支え合いマップづくり	16
----------------------	----

④グループワークで社会資源と課題を共有	16
---------------------	----

⑤生活支援アンケートによるニーズ調査	17
--------------------	----

⑥健康づくり意識調査	17
------------	----

参考資料	18
------	----

おわりに

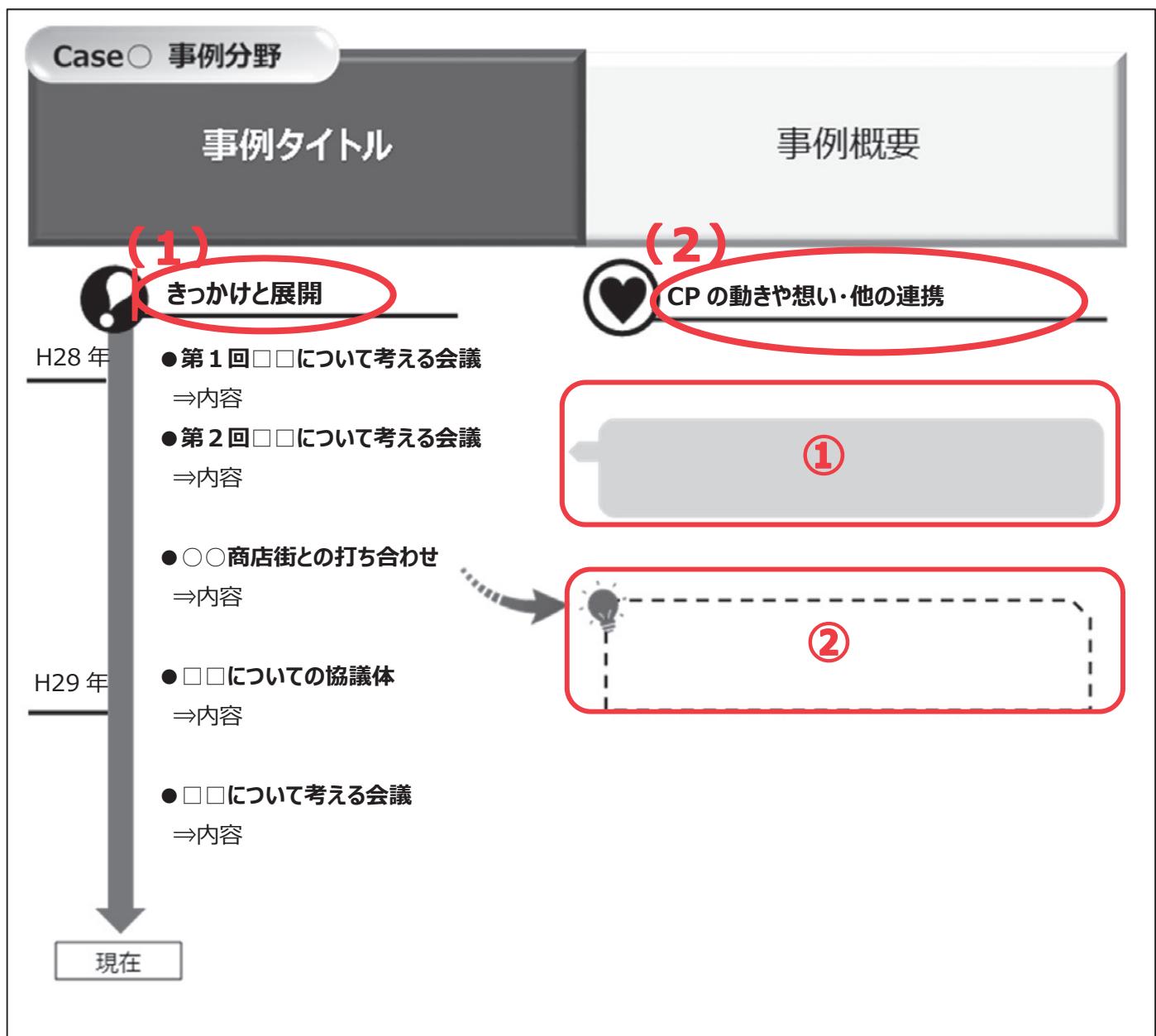
略字表記

※この冊子では、次の用語については()内の表示とします。

- | | |
|------------------|-------------------------|
| ・地区社会福祉協議会（地区社協） | ・地域ケアプラザ（CP） |
| ・区社会福祉協議会（区社協） | ・地域包括支援センター（包括） |
| ・市社会福祉協議会（市社協） | ・地域活動交流コーディネーター（地域交流Co） |
| ・民生委員・児童委員（民生委員） | ・生活支援コーディネーター（生活支援Co） |
| ・地区連合町内会（地区連合） | ・第1層生活支援コーディネーター（1層Co） |
| ・自治会町内会（自治会） | ・第2層生活支援コーディネーター（2層Co） |
| ・地域福祉保健計画（地福計画） | ・生活支援体制整備事業（体制整備事業） |

ページ解説

※この事例集では、事例紹介ページ内一部の各項目及びアイコン等について、以下の定義付けをいたします。



- (1) 事例に大きく関連したきっかけや展開（会議等の開催や活動・取組の発足等）を時系列に掲載しています。
- (2) (1)に対するCPの動きや2層Coとしてどのような考え方をもって行動したか、他機関との連携状況等について記載しています。
- ① CP（生活支援Co）の働きかけや考え方、関係機関との連携状況
 - ② 事例展開の起点となった重要なトピックス（アンケート実施・会議等の開催・住民の方からの一言等）

Case 1 職種連携

職種連携 ～ケアプラザ他部門との協働～

4 職種で地区を分担し、2層 Co が全地区を掌握。さらに居宅部門とも連携しながら情報を得るなど、様々な地域状況を共有することにより、所内で一体的な生活支援体制整備事業（地域支援）を行なっています。



きっかけと展開

H27 年度
3月

H28 年度

●区社協地区担当と年間目標、スケジュール立て

2層 Co だけでなく包括や地域交流など所内で一体的な体制整備事業（地域支援）を行うことを検討。支え合いマップを作成し、地域課題の確認と具体的な活動を検討している1地区を、支援し展開するモデル地区とした

●1層 Co と体制整備事業の進行スケジュールを検討

●地区担当として地域支援を行う

4 職種5人で5地区を分担し、2層 Co は全地区を掌握する体制とした

●地域分析を CP 内の各職種へ提案

分担地区だけでなく他地区についても知っておくという意図で、それぞれの地域分析を各職種へ依頼。2層 Co が地区情報をとりまとめることとした。

- ・モデル地区のアセスメント等を優先的に行う
- ・社福士を中心に総合相談の主要要因について分析
- ・主任ケアマネとインフォーマルサービスについて意見交換
- ・保健師と統計データ、相談、介護予防講座等から分析した主観的部分を共有
- ・モデル地区の分析を包括と共有

●ニーズ把握のための様式を作成し、各職種へ依頼

- ・予防プランナーも含めた予防ケアプランの状況確認
- ・委託プランについては包括で確認
- ・居宅ケアマネジャーによる担当ケースへのヒアリング実施
- ・地域交流の自主事業参加者の傾向を確認

●集計結果のフィードバック・共有

- ・包括、プランナー、居宅ケアマネジャーから戻ってきたデータの取りまとめを行い、フィードバック
- ・区域アセスメントシートにヘルパーやデイへのニーズ状況、地域活動状況や考察を含めて落とし込みをし、包括と地域交流で共有

●各地域の目標設定を専門職としての視点で設定

●5 職種会議を有効活用

インフォーマルリストを基に2層 Co と主任ケアマネを中心に情報の再確認

CP の動きや考え方・他の連携

体制整備事業が開始されることを前提に、地区支援の目標設定を行うことを地区担当と共有した。

体制整備事業を2層 Co だけで抱えず、他部門と一緒にすることで、「共通した地域像のイメージとなり、協働した活動につながっていきやすいのではないか」と考え、地域支援のプロセスと一緒に踏むことが重要だと考えた。

- ・専門性を活かして、社会資源の把握と活用ができる。
- ・所感を入れることにより、地域の中で足りないこと、必要なものを把握できた。
- ・総合相談を受ける際にどの地域からの相談なのか意識するようになった。

地域支援に活かせる質的データが必要！

- ・必要なデータに差異が出ないように様式を作成
- ・相談状況の把握の必要性
- ・社会資源の活用を考えたプラン把握
⇒期間は2か月（期限はあるほうがよい）

ケアプランの分析には発見があった

⇒介護保険サービス、インフォーマルサービスの活用状況とそれに伴う所感を記入。それによりインフォーマルサービスが活用されていないことが分かった。

《集計時の工夫》

- ・数字のデータだけ見るのでなく考察も必要
- ・（困りごとの具体的な内容も見えてくる）

各職種からのデータを分析してまとめたアセスメントシートを各分野の職員と共有することにより、新しい居場所の必要性がある地域や既存のサロンの機能強化を行う必要性のある地域等が把握できた。

専門職として次年度への事業計画にも反映させることで、体制整備事業を全体で取り組むことへの具体的な行動へつなげる動きになった。

* 地域概況

- ▶世帯数：約 21,600 世帯（38 単位町内会）
- ▶高齢化率：16.0%（平均年齢が 40.3 歳と若い）
- ▶特記事項：包括エリア内 5 地区 5 連合あり



所内部門間調整：相手の業務を知った上でお互いの役に立つ項目を考えて協力を依頼

関係部署	特記事項
包括・地域交流	5 職種会議（定例）：地区支援 1 回／月
区域主任ケアマネ・生活支援 Co	インフォーマルリスト検討会（地域支援に必要な資源等を検討）
居宅介護支援	情報収集のためのヒアリング依頼を居宅ミーティング時に丁寧に説明
介護予防支援	予防プラン（委託プラン含め）実態把握を依頼



その後の展開と展望

- 各職種からの分析をまとめたアセスメントを説明資料とし、また地域支え合いマップ作成による状況把握から、介護予防と見守り機能を備えたサロン実施を地区社協と検討した。共催で「スポーツ吹き矢」の講座を実施し、講座終了後も、活動は継続され、新しい社会資源となった
- アセスメントシートを各職種で共有、専門職としての視点を H29 年度の事業計画へ反映することになった
⇒インフォーマルサービスが少ない地域で、包括保健師が企画した体操講座をグループホームを会場にして実施
- アセスメントシートを基に各地区で特化した課題へのアプローチと全体で共有した課題（見守り）を意識して、活動の立ち上げ支援や機能強化を進めて、個別課題の解決につなげる



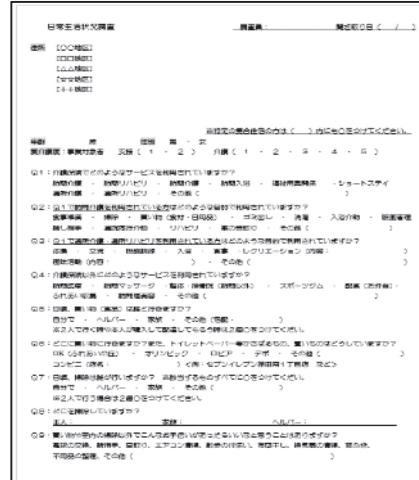
資料

参考資料①



地域概要まとめ

参考資料②



居宅ヒアリング様式

【新たなインフォーマルサービスの開発】



スポーツ吹き矢



グループホームを利用した体操講座

Case 2 住民主体の地域づくりの推進体制の構築

共助力アップ！

～いざという時に助けあえるまちを目指して～

高齢化率が高く、狭い道に住宅が密集しているC町。災害時には大きな被害が予想されます。しかし、住民の防災意識は低く住民同士の繋がりも薄い…。被害を最小限に抑えるために、自助・共助力のアップを目指した取組が始まっています。



きっかけと展開

H27年

- C町内会の副会長を務めていたAさんが
町内会長に就任
- 地域防災拠点運営委員会の委員長がA会長に
⇒委員会運営を見直し、定例会が毎月開催になった

H28年

- 地域防災拠点運営委員会にて
自宅から拠点までの避難に課題があるのでは…という
話題をきっかけに、いざという時に備えて住民の自助・共
助の力を高めたい、とA会長からCPに相談があった。
まずは動きやすいよう、拠点全体ではなくC町内会独自
で進めてみることになった。
- C町内会の要援護者マップづくり（協議体として）
- 整理した情報を元に今後の計画検討
⇒C町内会の活動計画をA会長とCP協働で作成

↓

<目標>

災害時死者0を目指した「ご近所同士の支えあい・見守り
体制」の仕組みづくり

<具体策>

町内をより身近なエリアで4グループに分割。
各グループで訓練を実施し住民同士の顔の見える関係づ
くり・防災意識啓発を行う。

H29年

- 第1回防災訓練実施
参加者26名。（町内会役員、CP等職員含む）
 - ・消火栓開閉訓練
 - ・移動式消火器取扱い訓練
 - ・講義：C町内会の防災対策と共助の大切さについて
 - ・防災備蓄品試食

⇒終了後、報告チラシを作成し町内に掲示
- 高齢者住宅の相談員と情報交換会実施
マップづくり等で、町内の高齢者住宅入居者と繋がりが薄い
ことも課題として挙がったため、相談員との情報交換を実施。



CPの動きや考え方・他の連携

CPはC町内に位置。会長は頻繁にCPへ寄り、地域の各種団体の役割などわからないことを職員に聞いていた。
⇒その都度所長や職員が疑問を解消できるよう説明し、
会長との信頼関係が生まれていった。

防災拠点の定例会にはCP（所長か地域交流Co）と区
社協が参加するようになり、防災に関する地域の課題が見
えやすくなった。

● C町では包括への相談件数が増加し、活動の担い手不
足も深刻であるなど課題が多くなっていたため、CPでは
町内会役員だけでなく住民同士の日常的な見守りの強
化や若い世代の巻き込みが課題であると感じていた。
・そのタイミングで会長から相談があった。
⇒まず課題を共有・見える化するために、C町にどんな方
が住んでいるのかマップに整理してみてはどうか、と2
層Coや包括から提案した。

・要援護者情報や地域の課題を見える化することを目的に会
長・副会長への聞き取りを所長+5職種で協力して行った。
・その後も民生委員や住民から、数回に分けて聞き取り。

・訓練後の講義は、CPで行うことで、CPの周知を図った。
・講義内容はA会長と相談し、自分で出来る災害対策に
ついてだけでなく「日頃の見守り・支えあいがなぜ大切な
のか」を2層Coから説明する時間を設け、町内全体で
顔の見える関係づくりが進むよう働きかけた。

・報告チラシは、訓練に参加しなかった住民にもC町内会の
防災に対する取組内容が伝わった方がよいと考え、2層
Coが訓練実施の翌日に作成。
・作成したチラシをA会長にお見せし、掲示板への貼付や回
覧を提案したところ、すぐに対応していただけた。

【包括と連携】

・情報交換は主任ケアマネと2層Coが出席。入居者のニ
ーズや現状把握を進めながら、町内の住民と関わりが持てる
居場所づくりなどを検討している。
・事務所内での日常的な情報交換や5職種ミーティングを活
用して、個別の生活課題を共有。

* 地域概況 [対象エリア：C町]

▶高齢化率：30.4% ▶世帯数：718 世帯 ▶町内会加入率：60%

▶特記事項：商店街を中心に小さなアパートが密集している平坦な地域。木造住宅も多い。

高齢者住宅が2棟あり、子育て世代は少ない



地域の関係者紹介

人物・団体	特記事項
A会長	H27 就任。防災への意識が高く、副会長時代から C 町自主防災委員会の組織づくりを行うなど、積極的に活動していた
B副会長	C 町に住んで長く、地域情報を多く持っている。要援護者マップ作成に協力してもらった
C町内会自主防災委員会	防災訓練の実施主体。毎月定例会を開催し、備蓄庫の整理から訓練の計画立案等を行っている
自主防災委員会メンバー	H29 年度より、40 代と若い委員長が就任。町内会役員や消防団員等 9 名で構成されている



その後の展開と展望

- ① A会長は、この取組が単なる防災対策だけでなく、C町にあたたかい見守りが生まれ、高齢者や障がい者の孤立防止となることも目的だと話している。CPとしても、C町で見守りが広まり、困りごとの早期発見・早期対応に繋がることを目指して関わりを続けている。

②この取組をきっかけに防災委員会の定例会に2層Coが参加できるようになったため、C町の高齢化の現状や高齢者住宅相談員との情報交換の結果等を伝えている。その中で、防災委員会委員長より「高齢者がこんなに多いのに、町内に集える場がないのはおかしいのではないか」という発言が出た。

⇒その言葉をきっかけに、2層CoからA会長をはじめ町内会メンバーへサロンを立ち上げてみませんか、と提案。

⇒民生委員も以前から居場所づくりを行ったかったということが分かり、H30.4～サロンを開始することに！

～取り組みの様子～



マッピング中！



參考資料③

A会長が作成した 訓練のチラシ



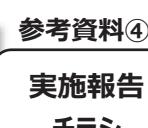
本格的な放水訓練 &防災講座



⑨ 「内会が『見守り』体制づくり」
声掛けが気楽にできる「向こう三軒両隣」の絆づくり

- ③ 助けられ上手になる
 - ・自分の状態をご近所に知ってもらう
 - ・困った時には日頃から相談できるように

“いざという時”は今日、明日かも…。
できるところから少しづつ始めましょう！



Case 3 社会資源の開拓①

買い物について考える会

～困っている人にできることをみんなで考える～

まちづくりの団体が H23 年に実施した買い物アンケートと、買い物困難者をテーマに実施した地域ケア会議をきっかけに立ちあがった「買い物について考える会」。地域が買い物に困っている人に何ができるか考え、様々な取組にチャレンジしています。



きっかけと展開

H28 年

●第 1 回「買い物について考える会」

地域ケア会議の振り返りと買い物アンケートの結果から、自由に意見交換

●チャレンジ①買い物に関するお役立ち情報を発信

スーパーの配達サービスについてのチラシを会で作成、掲示板に掲示

●第 2 回「買い物について考える会」

「買うものは自分の目でみて選びたい」という思いを把握

買い物に関するアンケートの実施が決定

H29 年

●第 3 回「買い物について考える会」

アンケートの実施に向けた最終調整

●チャレンジ②買い物アンケート実施

自治会加入 2800 世帯に配布（1296 枚回収）

●第 4 回「買い物について考える会」

アンケート結果に基づき、今後の取組を検討
自治会長が、地元の商店に出張販売の協力を得られるか打診した。

●地元の商店との話し合い

店主から、店の車を使っての送迎について提案

●第 5 回「買い物について考える会」

地元商店までの送迎案を提案。お試し開催が決定
必要性を感じている方にお試し実施に参加してもらうため、民生委員に協力を依頼し、送迎の希望調査をすることになった。

●チャレンジ③アンケート結果を掲示板と回覧板にて周知

●民生委員による聞き取り調査

民生委員が希望者の調査票を独自に作成

民生委員が定期訪問の対象者に聞き取りを実施

⇒約 40 名に聞き取り、6 名の方が送迎を希望

自治会長が民生委員に会への参加を呼び掛ける

●第 6 回「買い物について考える会」

地元の商店までの送迎について具体的な内容を検討。企画名は「お店をのぞこう」に決定

●チャレンジ④

「お店をのぞこう」（地元商店までの送迎）実施

⇒参加者 5 名 ボランティア 4 名

数年ぶりに自分で買い物に行ったという参加者も



CP の動きや考え方・他の連携

第 1 回開催に向けた準備

- ・H23 年に実施した買い物アンケートを再度見直し、分析をつけた資料を作成した。※資料は 1 層 Co と作成・包括へ地域ケア会議の結果について話してもらうよう依頼。

第 2 回開催に向けた準備

- ・第 1 回目の意見を可視化した資料作成。（2 層 Co）
- ・出された意見と近い他地区の取組を「地域の中で取組が生まれた」ことをポイントに情報収集。

さまざまな意見が出された中で、まずはアンケートを取ろう！と具体的な取組の実施につながった最初のきっかけになった

アンケート実施に向けた準備

- ・配布と回収について自治会に合わせた時期や方法を会長に確認し、負担を最小限にするよう配慮

・自治会副会長と 1 層 Co、2 層 Co で地元の商店の想いを伺った。当初は出張販売の協力が得られないかと相談したが、品物の管理などから実施に難色を示す。しかし、「出張販売はできないけど、お店まで連れて行くよ！」と買物客の自宅からお店までの送迎を店主が提案。小人数で話したからこそ、商店の本音を聞き、新たな取組案が出てきた

・民生委員の訪問者に対する聞き取り調査の依頼を打診。買い物を考える会の経緯の説明やどのような形で調査ができるかなど民生委員全員と話をした

第 6 回開催に向けた準備

- ・利用希望者をマッピングし、自治会長・副会長・地元商店店主に事前に企画案を打診

「お店をのぞこう」実施に向けた準備

- ・地元の商店とルート確認。
- ・民生委員に依頼し、送迎時間の書かれたチラシを参加予定者に配布してもらった

* 地域概況 [対象エリア：A 自治会]

▶高齢化率：24% ▶世帯数：約 4300 世帯 ▶町内会加入率：65%

▶特記事項：大型スーパーあり。地形的な起伏が激しく、エリアによって買い物に困難な方が多い



買い物を考える会に関わったメンバー

人物	特記事項
自治会会长	H29年4月より就任。まちの課題を解決するため積極的に取り組む
副会長	母親も買い物に困っており、課題に真摯に向き合う
前自治会会长 (地区社協会長)	買い物を考える会立ち上げ当時の自治会長。H23年に実施した買い物アンケートにも関わっており、買い物に困っている方が多いことを把握
高齢者(女性)	元自治会長が、自治会の中でも特に坂道が大変なエリアから声をかけた。 一般の主婦層の意見を取り入れたいとの元自治会長の提案にて実現
子育て中の母親	まちづくりの団体に参加している小学生のお子さんがいる母親
民生委員	自治会の活動に対し理解があり協力的
地元スーパーの店長	第1回、第2回の会に参加
地元商店の店主	隣接する町会の個人商店。電話で商品を配達してくれる。自治会行事に協力的



その後の展開と展望

- ・商店の車を利用して、商店までのピストン送迎をお試しで実施。民生委員からの声掛けにより実現した。買い物支援から見た、外出先での人との交流の重要性も実感できる取組であり、買い物を考える会で考えたことが現実に実施される機運が更に高まっている
 - ・今後も地元の商店との協力などさまざまなアプローチで買い物アンケートから得た地域のニーズにこたえていくよう買い物を考える会を進めていく

～取り組みの様子～

參考資料⑤

チャレンジ① 買い物情報の発信



自由意見を
可視化

參考資料⑥

參考資料⑦

參考資料⑧

買い物アンケートの結果

第一回の買い物の内容についてお問い合わせ、第二回の買い物についてお問い合わせ

お問い合わせ用紙を送付して下さい。お問い合わせ用紙は、**「買い物アンケート」**の欄に記載されています。

回答数：46人（女性）：平均年齢：27歳（22歳～38歳）

58% 真面目に困っている人

困苦の中での
困っている人が最も地域

3丁目

困っている
1.坂道や階段が大変
2.重いものが持てない
3.近くにお店がない

困っている
○あることを非常に困っている。麻雀卓はめでることなく。
○結構困る。でも我慢している。子供がよくうそをつく。
○困る。でも我慢している。仕事で困る。
○あまり困らない。でも我慢している。仕事で困る。
○あまり困らない。でも我慢している。仕事で困る。

→ホームページへご協力ありがとうございます

チャレンジ③
アンケート結果掲示



チャレンジ④ 地元の商店の車で、 商店までの送迎をお試し実施

民生委員が作成した調査票

- 8 -

Case 3 社会資源の開拓②

「おもい」を「カタチ」に変えていく

～マンション内でみんなが気軽に集える場を！～



きっかけと展開

H28年
6月

●A 民生委員より

⇒マンション内で「高齢者サロン」を開きたい！

- ・民生委員活動で、一人暮らし高齢者の把握はできるが、名簿に載っていない人たち（高齢者世帯等）の方が、マンション内には圧倒的に多い。
- ・最近は、見守りが必要と思うことが多い
- ・マンションの住民同士の関係構築の一つの方法として、サロンを立ち上げたい

H29年
1月

●A 民生委員より

⇒高齢者サロン開催に向けて、自治会と話を重ねたが、ダメ！と言われた…。

- ・「Aさんが民生委員を辞めたら誰がやるの？」
- ・「どうせ仲良しクラブになるんでしょう？」

H29年
3月

●A 民生委員より報告

⇒次年度から（民生委員主導の）「月一茶話会（仮称）」開催決定！（自治会で予算化された!!）

H29年
4月

●A 民生委員より

⇒開催に向けて、サロンの内容を相談したい。

- ・マンションの住民はCPのことを知らない人が多い。CPのことで話してほしい。
- ・誰かと話したり、お茶を飲んだりできる場にしたい。
- ・参加型の企画を盛り込みたい。
- ・まずは月1イベントを開催して、多くの人に出向いてもらえるような仕掛けをしていきたい。

●サロン開催に向けて…

A 民生委員とその仲間たちで、開催に向けての打ち合わせを実施し、確認をした。

- ・出入り自由のフリースペース
- ・誰でも利用できるものを準備（セルフサービス）
- ・受益者負担については、今後も検討していく（一律の参加費 or かかった時だけ徴収）

掲示物作成担当、会計やお買い物の担当、企画・計画提言担当、自治会や管理組合との橋渡し役といった役割を決めた。

●『ゆりの木サロン』オープン！

参加者：16名（うち男性4名）

60歳代～80歳代の方が参加。初回だったので様子見て来た方もいたが、まずはスタート。

子育て世代の入居者が多いマンション。

「高齢夫婦のみ」若しくは「高齢者+子」といった世帯の場合、民生委員として対象者の把握が難しい現状です。

「若い人たちが多いマンションにも高齢者はいる。マンション内で高齢者支援に取り組んでいきたい」と民生委員の思いからスタートしました。



CP の動きや考え方・他の連携 等

日頃から、民生委員活動の中で気になることがあると、よく話してくれるA 民生委員。

「やってみたい！」という発言を素早くキャッチ！

まずは“受け止める”、“一緒に考えていく姿勢を見せる” “主体的に動いてもらえるような声かけ”を心がけた

所長及び地区担当と情報共有。地域支援記録に記入

サロンの必要性や意義を、どのように自治会役員に伝えていくことができるかを、改めて考えるきっかけとなった。

「サロンをやりたい」と思っている仲間が A 民生委員にはいる！仲間の気持ちも確認しつつ、再度自治会に働きかけを促す

毎年交替する自治会の担当役員への対応方法について、A 民生委員と検証した。（キーマンの確認等）

長く緩やかに続けていくことができる仕組みづくり

「どこからやっていく？」「誰が何をする？」を決めようと提案。

①介護保険申請等、CP には相談から繋がっているケースもあるが、ごく少数。（それほど多くない）

②CP から「介護予防」と「社会参加」の取組や重要性を話す、伝える機会に位置づけ。

③CP（子育て支援事業やボランティア活動者）や区民活動センターで活動中の団体を紹介。

④男性にも女性にも参加できるイベントを組み入れていく。

⑤自治会で予算化されたものだけでは継続していくことが難しいので、区社協の「ふれあい助成金（新規サロン立ち上げ・運営経費）」について情報提供し、申請手続きの助言等を行う。

この話し合いに 2 層 Co は入らず、主体的に動いてくれるメンバーで骨子の確認をしてもらうようにした。（報告はその都度 A 民生委員より受けていた）

第1回目の開催後に参加者の顔ぶれ等を見た上で、再確認をするところから 2 層 Co は入らせてもらうことも予め伝えておいた

CP 紹介とサロンでやってみたいことを参加者から引き出すための投げかけを行い、今後の内容についてメンバーと検討

* 地域概況 [対象エリア : C マンション自治会]

- ▶ 高齢化率 : 不明 (マンションのある D 町 : 15%)
- ▶ 世帯数 : 743 世帯
- ▶ マンション築 : 2008 年 5 月
- ▶ 特記事項 : 駅徒歩 10 分。敷地内には桜並木やログハウス等もあり、自然環境豊か。自治会の役員は 1 年交替。
- 継続した取組はマンション内のサークル活動が主。



地域の関係者紹介

人物	特記事項
A 民生委員	現在、2 期目。フットワークも軽く、お互い様の関係づくりがこのマンションに必要だという思いを持つ。仲間づくりや世代間交流に興味あり
B 連絡担当者	A 民生委員の隣人。小学校 PTA 役員経験有。自治会役員も前年度に経験しており、その時に A 民生委員と共に動いていた
C 自治会成年部会（社協担当）	今年度、地区社協定例会（隔月開催）に参加する担当となった男性。妻は、長年ボランティア活動をされていることもあり、理解も深い
D 自治会成年部会	上記 C さんと一緒に、自治会や管理組合との橋渡しをしてくれる男性。「まずはいろいろとやってみよう」と後押しをしてくれる存在
E さん（会計担当）	A 民生委員、B 連絡担当者とともに、このサロンの立上げから関わってくれている女性。もともとはマンション内の手芸サークルで A 民生委員と一緒に活動していた



その後の展開と展望

① 先ずは、マンション内で誰でも集える場所が始まったことを知ってもらおう！ …でも、どこが目立つ？！

⇒ 住民目線で一番目立つところと言えば…『エレベーター内』。※そこは通称「モナリザの額」と呼ばれ、管理組合しか使用できず。（交渉の余地もない…）サロン開店のお知らせの掲示は、マンション内の掲示板（5 か所）とした。また、必要に応じて、メンバーが全戸配布している（申込制のもの等）。

② 出入り自由のフリースペースを目指す！

⇒ 今年度いっぱいのプログラム（企画）を立てて実行。

【平成 29 年度のプログラム】

(7 月) “究極の有酸素運動”をみんなで楽しもう…7 月末に盆踊り大会に向けた練習

(8 月) みんなで防災・減災（防災カフェ）…防災に馴染みのない女性や高齢者をターゲットにした講習会

(9 月) 家庭でできる美味しいコーヒー淹れ方体験…コーヒー外交と称し、メンバーと参加者とで交流会

(10 月) 切り絵教室…色紙を切ってはがきに貼る、簡単な切り絵を体験

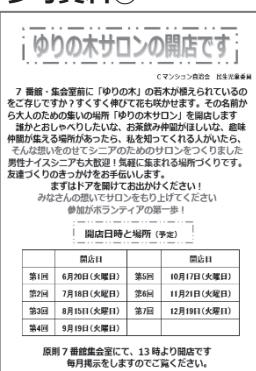
(11 月) ゆりの木サロン Relax Concert～クラリネット＆アイリッシュハープのしらべ～…高齢者だけではなく、親子連れやマンション外からも参加 OK とした

今後、手芸教室や編み物教室、ウェルネススターツなどを実施予定。

★ 当初は「高齢者に参加してもらいたい」と始めたサロンが『多世代（誰でも参加 OK）交流』のサロンに展開中！ ★

～取り組みの様子～

参考資料⑩



参考資料⑪

サロン開催の発信！
コーヒー淹れ方体験



女性防災士による
「防災カフェ」

Case 4 多職種とのネットワーク構築

目指せ！民間事業所と取り組む 地域支援 ～共にwin-winの関係へ～



きっかけと展開

H28年

CP のデイスタッフより「民間事業所と、制度改正による情報交換や日頃の業務の相談ができる『交流会』があるといいな…」との相談があった。

⇒ 2層 Co とデイスタッフが中心となり検討
「地区内のデイ事業所を対象とした交流会」を企画

●第1回 交流会を実施

8 事業所の参加

「緊急時の対応への不安」「職員の教育、スキルアップ、人材確保」など困っていることやお悩みについて情報交換

●第2回 交流会を実施

4 事業所の参加

「人材の確保」「職員ヘルスケア」「相談員業務」「地域に向けての取組」「地域包括ケアシステム」などについて情報交換

●デイサービス事業所 D の内部研修にて、虐待ハンドブック研修を実施

●第3回 交流会を実施

5 事業所の参加

前2回の会議から「人材育成」が共通の課題
⇒「集合研修」の実施について提起し、企画の内容について検討

●研修会の打合せ

テーマ決定：「介護技術の勉強会」

●介護技術研修会 実施

19:30～20:45という時間設定にもかかわらず、30名を超える参加者があった。アンケートでは、「わかっている様でも「はっ！」となるいい機会になった。」「技術に不安があり、こういう勉強会はとてもうれしい」という意見があった。

●デイサービス事業所 G にて、デイサービスとヘルパーを対象に虐待ハンドブック研修を実施

●デイサービス事業所 C に地域のウォーキンググループでの体操講師を依頼

CP のデイサービススタッフからの提案で実現した『地区内のデイ事業所を対象とした交流会』。情報交換の場を持つことが民間事業所と顔の見える関係づくりへつながり、新たな取組や事業所間の連携が生まれています。



CP の動きや考え方・他の連携

デイスタッフとしては、介護保険制度改革に伴う対応への悩み相談が出来る場があると良いと考えた。2層 Co としては、デイ事業所同士の交流が新たなネットワークとなり、専門職による地域支援につながるのではないかと考えた。職員会議でも相談し、CP5 部門も参加した交流会実施に至った。

当初、どのくらいの事業所が交流の必要性を感じているのか未知数だった。居宅のケアマネジャーと2層 Co で事業所をり、交流会参加ニーズを把握した。



今後、連携して地域に向けた取組に発展できるか探るために、「地域包括ケアシステムについて知っていますか？」と投げかけたが、詳しくは知らない様子の人がほとんどで、周知啓発の必要性を感じた。看護小規模多機能型居宅介護支援 F からは「認知症カフェを持ち回りで出来たらいい」という提案もあったが、どの事業所も業務で手一杯で、今すぐには難しい様子だった。そこで、介護予防事業での連携（出前体操教室など）、虐待ケースの早期発見への協力から呼びかけてみることとした。

現場のみなさんの発言から、介護技術の基礎が無いまま現場で働くスタッフが多い現状がわかった。

2層 Co としては“縁結び”をすることが役割の1つと考え、今回の交流会を企画した。

デイ事業所の交流会を行うことでデイ事業所間のつながりができたうえに、新たに2層 Co とデイ事業所のつながりができた。交流会という場が、今後のデイの役割や総合事業の現状のほか、地域活動についての話など、デイ事業所に対して2層 Co として伝えたいことを伝えられる場所となった。

また、顔の見える関係になることで、デイ事業所を地域の資源として活用できるようになった。

* 地域概況 [対象エリア：B 地区]

▶高齢化率：約 21.9% ▶世帯数： 約 19,500 世帯（約 40,000 人）

▶特記事項：自治会ごとにミニデイサービスなどの事業が盛ん。孤立、認知症、悪質商法被害の相談多い。



参加事業所

事業所	情 報	
デイサービス A	株式会社運営	通常規模型通所介護
デイサービス B	株式会社運営	通常規模型通所介護
デイサービス C	株式会社運営	地域密着型通所介護 機能訓練特化
デイサービス D	株式会社運営	大規模型通所介護
小規模多機能型居宅介護支援 E	株式会社運営	小規模多機能型居宅介護
看護小規模多機能型居宅介護支援 F	株式会社運営	看護小規模多機能型居宅介護
デイサービス G	株式会社運営	通常規模型通所介護



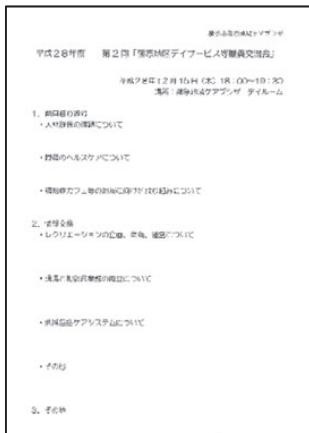
その後の展開と展望

交流会を継続開催し、その中で共通の課題について検討が出来る場としていきたい。同じ地域で高齢者支援を担う専門職として、介護予防の指導、介護者のつどいの講座講師等での“頼み頼まれる”関係につなげていきたい。

【今後の展望】

- ①デイ利用者だけでなく介護予防やボランティア受け入れ等で、民間事業所が資源として地域に還元される。
- ②デイ事業所間の連携を強化し、専門職による地域支援につなげる。
- ③このネットワークが参加者の“相談できる場”となり、継続することで民間事業所がメリットを感じ、参加する事業所が増えること＝社会資源が増える。

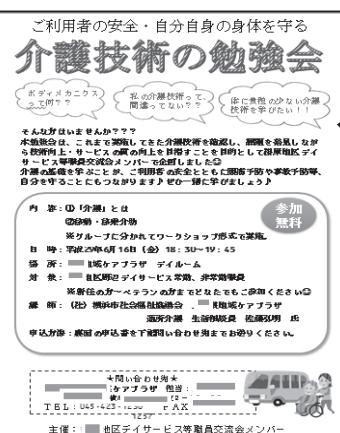
～取り組みの様子～



交流会次第



交流会風景



研修会チラシ

虐待ハンドブック研修



研修会風景



Case 5 サービス B との関わり

通所型サービス B と地域の縁結び ～戸建てを活用した地域福祉交流スペースの取組について～

A 町は山坂が多い地域でミニデイや老人会の会場となる自治会館も山の上にあるため、足腰が悪くなると行けなくなってしまう方も多い地域です。以前から平地での拠点確保が課題となっていた A 町の平地に、「地域福祉交流スペース」がオープンし、間もなく通所型サービス B としての取組がはじまりました。



きっかけと展開

H29 年

4月

●空き家を活用した地域福祉交流スペース（※以下交流スペース）オープン【実施主体：NPO 法人】

子育て支援を中心に行ってきた NPO が、世代を問わずに誰もがラッピ立ち寄れる地域の居場所を立ち上げた。

●地域福祉交流スペースから CP に協力依頼あり

「高齢者を中心に介護予防に資する支援をしたい」「高齢分野の知識やノウハウが不足しているので、CP に協力してもらいたい」とのお話があった。

→CP 共催「のびのび健康体操教室」開催

2 層 Co と包括保健師で企画。デイ職員が講師。

●交流スペースの活動の一部を通所型サービス B として申請

→区係長と担当職員、1 層 Co, 包括看護師、2 層 Co でヒヤリング。

●交流スペースのスタッフ向け研修実施

「介護保険の勉強会」「認知症サポーター養成講座」

●通所型サービス B 「のびのび会」の試行実施

→主マネと 2 層 Co で訪問し、要支援者のつなぎ方や事業の周知の件、地域への説明…等を話し合った。

●エリアに近い CP と協働で「介護予防講座」を実施

近隣エリアの CP に協力を依頼し、近隣エリアの地域住民にも利用してもらうことを目的に実施した。

9月

10月

11月

H30 年



CP の動きや考え方・他の連携

まずはお互いを知る所からスタート

一緒に地域づくりをする仲間として、信頼関係を築いていくと考え、交流スペースに足を運び、コミュニケーションを積極的にとった。

A 町の健康づくりの拠点となるよう、まずは交流スペースに地域の高齢者に来てもらうことを目的に、包括保健師と 2 層 Co で体操教室を数回にわたり企画実施した。

総合事業の通所型サービス B としてサービス提供していくにあたり、交流スペースのスタッフが事業の趣旨を理解し、高齢分野の知識を習得し、安心してサービス提供が行えるよう包括が講師になり勉強会を実施した。

包括の講座実施によりサービス B の利用者増を目指したが、利用者が定着して通い続けるケースが少なかつた。立地状況もよく、内容も工夫しているが、なぜ利用者増につながらないのか…と関係者間で話し合いを重ねた。その中で、NPO 法人と「地域とのつながり」が課題にあがり、「地域の縁結びランチ会」をテーマとした協議体 & 地域ケア会議を企画検討することに。

近隣エリアの地域住民も通える場所にあるため、近隣エリアの CP にも相談したところ、共催講座の実施に至った。その結果、近隣エリアからの利用者増につながった。

「のびのび会」で実践ができる介護予防のノウハウを知つてもらうために、参加してもらった。ミニデイのボランティアとも交流する機会ができた。

町内会長や民生委員、ボランティア、サ高住の CM、地域住民に直接声掛けし、参加してもらった。会を実施することで地域交流スペースのスタッフと参加者間で地域像の共有や顔の見える関係作りができ、町内会の回覧に広報を入れもらうことも叶った。また地域住民へサービス B の説明の機会にもなり、交流スペースが地域の一員として受け入れてもらえる機会になった。

* 地域概況 [対象エリア : A 自治会]

▶高齢化率 : 21.1% ▶世帯数 : 約 5473 世帯

▶特記事項 : 急な坂が多く、ケアプラザからは一山越えていく。地区の中で最も広い町内会。古くからの活動も多い。



地域福祉交流スペースについて

平成 29 年 4 月に、**世代を問わずに誰もが「フラッと立ち寄れる地域の居場所**として、戸建てを活用した「地域福祉交流スペース」がオープンした。運営主体はこれまで子育て支援を中心に行ってきた N P O 法人。美味しいお茶やご飯を食べながら、一緒に語り合い、学びあい、得意なことを活かして活動できる居場所。子どもから高齢者まで、だれもがその人らしく過ごせ、ほっとできる温かい「もう一つのおうち」を目指している。これまでの活動を支えてくださったボランティアの先輩への恩返しと地域内での支え手の循環を作りたいという想いを原点としている。

【常設サロン（月～金）9：30～15：30（カフェ、食堂あり）】



通所型サービス B について

一定の基準を満たす団体に補助金を交付し、住民主体の有償・無償のボランティア等が要支援者等を中心とした利用者に対して、定期的に高齢者向けの介護予防に資するプログラムを提供するサービス。横浜市では平成 29 年 10 月から開始した。

地域福祉交流スペースでは、毎週月曜日の 10：00～13：00 時を**通所型サービス B**と位置づけて「のびのび会」と名付け、健康体操や脳トレ、健康講座等を実施している。



その後の展開と展望

通所型サービス B として継続して実施していくためには、「のびのび会」の登録者は増えても、サービス B としての要件を満たすための要支援者等の参加の条件があり、サービス B の要件を満たした利用者の確保が課題になっている。ケアプラザでは地域包括支援センターと 2 層 Co で一緒に近隣の高齢者専用住宅にアプローチしたり、定期的に地域福祉交流スペースを訪問したりして、利用状況を確認している。

また、地域包括支援センター保健師による介護予防講座も開催し、連続講座を実施することで利用者の獲得を支援している。まだ開設して間もない地域の拠点だが、これからはもっと身近な地域の居場所として根付いてほしいと考えている。

～取り組みの様子～



1



2



3



4



5

- ① 「縁結びランチ会」の様子 I
- ② 「縁結びランチ会」の様子 II
- ③ ランチメニューの一例
- ④ 「ロコモ予防講座(栄養)」の様子
- ⑤ 「ロコモ予防講座(体操)」の様子

地域アセスメントのあれこれ

①「社会資源及び要介護認定者情報のマッピング」



ねらい

包括エリア内に地区連合が複数あり、単位自治会町内会が多数ある地域において、各地区の社会資源の把握及び高齢者ニーズ等の傾向を分析する



具体的な内容

手法

- ・担当地域の地図上に地域資源や要介護認定者情報等をマッピング
- ・マッピング情報は1・2層生活支援Coを中心に傾向分析し、全体へ共有

参加者

CP所長・5職種・区社協地区担当・居宅事業所ケアマネジャー等



活用・効果

要介護者が多く困りごとが多様化していると思われる地域や社会資源の少ない地域の傾向を分析することで、CPとして重点的に関わりを持つ地域を見定めることができた

ケアマネジャーからの情報により、移動販売や訪問販売の存在など、個人の生活に密着した社会資源の情報を集約できた



地域アセスメントのあれこれ

②「単位自治会ごとの現状把握」

～基本の「キ」を知ろう！～



ねらい

単位自治会ごとの現状を把握し、小地域での支援方針を地域と共に考える



具体的な内容

聞き取り対象▶単位自治会長、連合自治会長

依頼方法 ▶個別に生活支援Coより依頼

使用した様式▶CPオリジナル

・基本的なデータだけではなく、「地域の中で支え合い活動があるか」という視点も聞き取った

・出来る限り、職員2名体制でヒアリングを行った

・ヒアリングの冒頭で、地域包括ケアシステム推進や地域ケアプラザ機能について説明した



活用・効果

- ・今まで参加できていなかった活動に参加できるようになった
- ・自治会の活動に声がかかるようになった
- ・単位自治会長や連合自治会長から、「地域の支え合い」(見守り等)についての相談を受けるようになった。

参考資料⑯

地域アセスメントのあれこれ

③「単位町内会での住民支え合いマップづくり」



ねらい

- ・単位町内会で気になる方、地域特徴（強みや繋がり）を地域の方々と共有する
- ・地域での支え合いや見守りの取組を実践する



具体的な内容

方法

単位町内会で定期的（月1回）に住民支え合いマップづくりを実施

参加者

町内会長、町会役員、民生委員、老人会、福祉ネットワーク、区社協、CP等



活用・効果

- ・住民支え合いマップから防災と支え合いについて考えるきっかけとなり、住民と一緒にDIGを実施。その後、実際にまち歩きを行った
- ・民生委員と友愛活動推進委員が連携し、見守りの層を厚くするための情報交換会開催へつながった
- ・マップづくりを通じ「町内会の横のつながりの必要性を感じた」との住民の声から、今後も地域のことを話し合う会として継続することとなった



地域アセスメントのあれこれ

④「グループワークで社会資源と課題を共有」



ねらい

- ・単位町内会における社会資源の把握および地域住民からみた課題の共有
- ・必要な人に必要な情報が届く仕組み作り（誰に何を問い合わせればよいか）



具体的な内容

手法

ワークシート「私たちのまちの『社会資源』にもとづいてグループワーク
自分の住んでいる身近な場所で何が行なわれているか話し合い、書き出す。→他のまち（グループ）のワークシートを見る。→他のまち（グループ）と比べて、思い出したこと等を追記する。→記載された活動等について「今後も残したいもの」「発展させたいもの」「新たに作りたいもの」に分類、分析。



参加者

地域の方（町内会長、友愛活動推進員、民生委員・児童委員、サロン等運営関係者等）

ケアプラザ所長、5職種、区社協（第1層生活支援Co・地区担当）、区役所



活用・効果

- ・専門職だけでは把握しえない社会資源、地域活動を知ることができた
- ・単町、および連合エリアの課題や地域の傾向を掴めた
- ・地域住民からみた課題やニーズが明らかになり、生活支援Coの取り組むべきことが具体的になった
- ・このグループワークに参加しなかった地域もワークシートがあることで後日ヒアリングや比較がしやすかつた

地域アセスメントのあれこれ

⑤「生活支援アンケートによるニーズ調査」



ねらい

介護保険サービス利用目的や地域とのつながり等を把握し、専門的なサービスの必要性や代替サービスについて検討する



具体的な内容

軽度の要介護高齢者を対象に「介護保険サービス利用目的」「地域活動への参加」「よく出かける場所」「日常的な交流」等の状況についてアンケートを実施

調査対象▶要支援1・2、要介護1・2

調査方法▶担当ケアマネジャーを通して、対象者に配布・回収

調査期間▶約2ヶ月



活用・効果

アンケート結果を集計し、エリア内の実際の生活実態を把握することができた。介護保険サービスでの専門的なサービスの必要性は一部であり、民間企業の代替サービスや地域の住民相互のインフォーマルサービスの活用が有効的だとわかった。

参考資料⑭

地域アセスメントのあれこれ

⑥「健康づくり意識調査」

～「地域で健康づくり」、興味ある？ない？～



ねらい

- ・社会活動への積極的参加が自立度UPにつながる調査結果の啓発
- ・地域で健康づくりを推進するための調査～健康維持・向上への関心度と関心ある健康づくりの種類について～



具体的な内容

調査時期▶H28年6月～10月

調査対象・回答者▶計265人／①ADL体操参加者87人 ②ボランティア178人
(男性35人、女性229人、無回答1人)

参考資料⑮



活用・効果

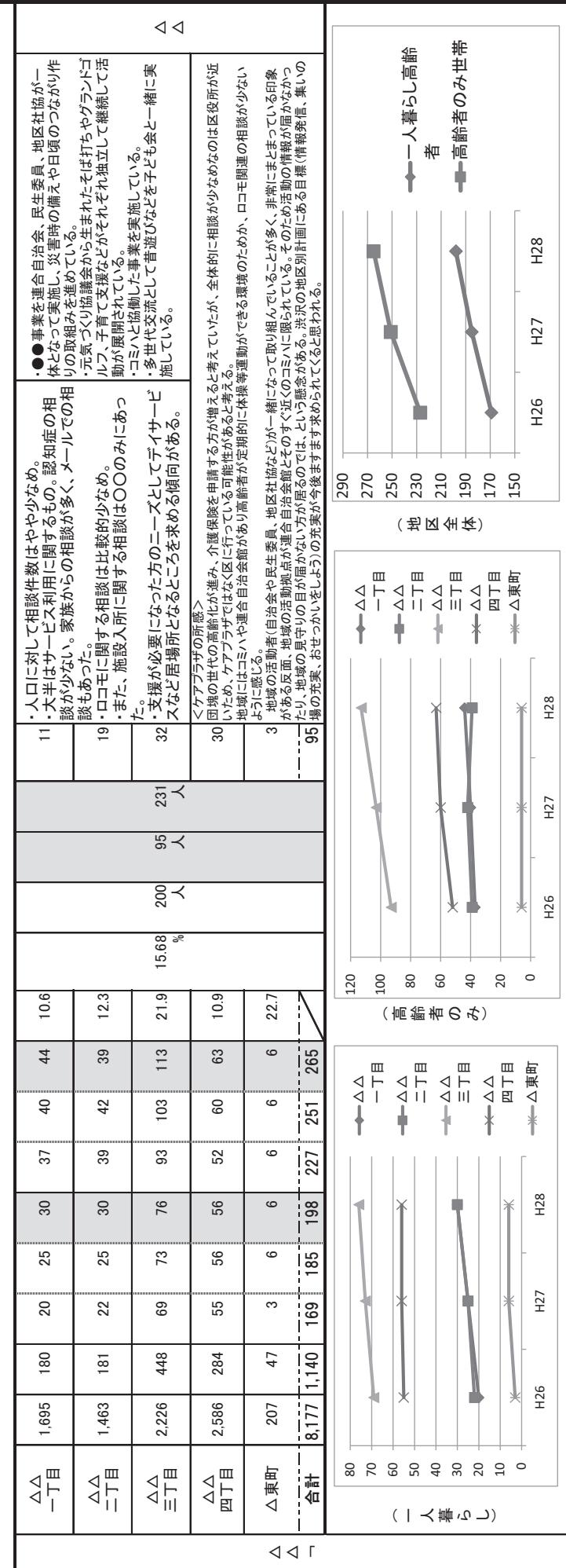
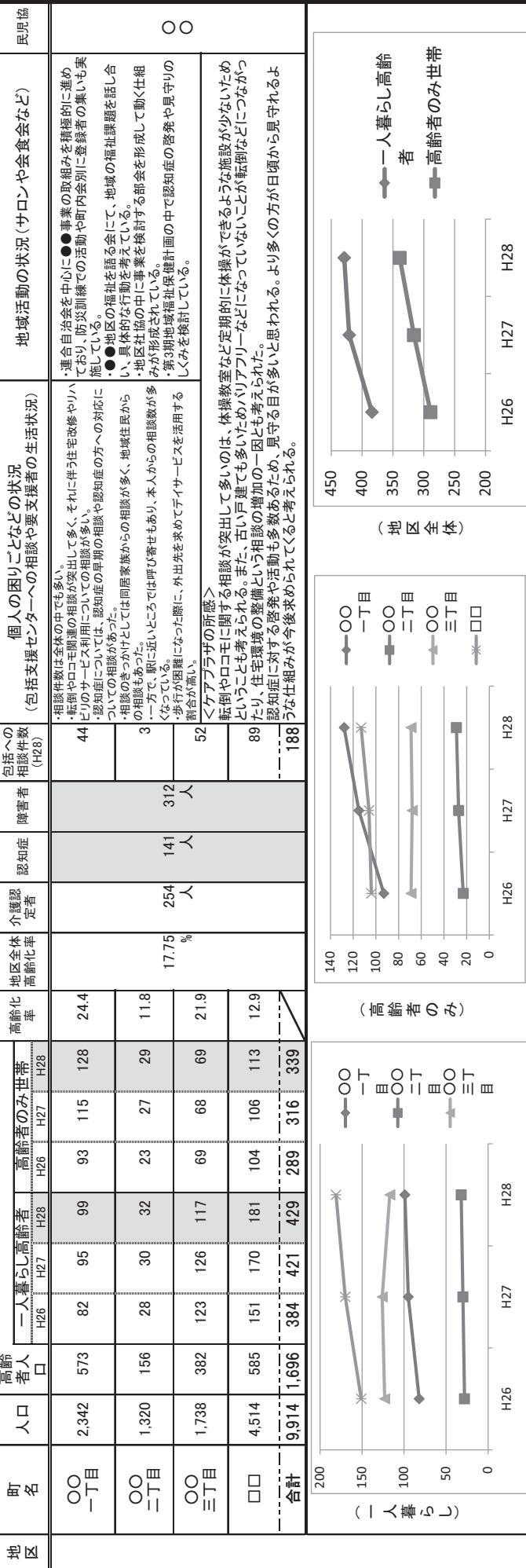
「個人で健康づくり」「趣味活動」への関心が高く、「地域活動」への関心が低い。地域活動に関心を示した人はすべて60歳以上。内70歳以上が73%を占めた。なお64%の人は、2種類以上のボランティア活動をしていた。

【見えてきた課題】

- ・70代の現役ボランティアが活動を継続するための健康づくり（介護予防）
- ・趣味・技術系の活動で地域のつながりづくりができる仕組みづくり
- ・地域活動の魅力UPとPR

參考資料集

平成28年度 ○○地域ケアアリアの地域概要について



- 住所 【○○地区】
 【□□地区】
 【△△地区】
 【☆☆地区】
 【++地区】

※特定の集合住宅の方は（ ）内にも○をつけてください。

年齢 歳 性別 男・女

要介護度：事業対象者 支援（ 1 ・ 2 ） 介護（ 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 ）

Q1：介護保険でどのようなサービスを利用されていますか？

訪問介護 • 訪問リハビリ • 訪問介護 • 訪問入浴 • 福祉用具関係 • ショートステイ
 通所介護 • 通所リハビリ • その他（ ）

Q2：Q1で訪問介護を利用されている方はどのような目的で利用されていますか？

食事準備 • 掃除 • 買い物（食材・日用品） • ゴミ出し • 洗濯 • 入浴介助 • 服薬管理
 話し相手 • 通院同行介助 • リハビリ • 薬の受取り • その他（ ）

Q3：Q1で通所介護・通所リハビリを利用されている方はどのような目的で利用されていますか？

体操 • 交流 • 機能訓練 • 入浴 • 食事 • レクリエーション（内容： ）
 趣味活動（内容： ） • その他（ ）

Q4：介護保険以外にどのようなサービスを利用されていますか？

訪問医療 • 訪問マッサージ • 整体・接骨院（訪問以外） • スポーツジム • 配食（お弁当）•
 ふれあい収集 • 訪問理美容 • その他（ ）

Q5：日頃、買い物（食品）は誰と行きますか？

自分で • ヘルパー • 家族 • その他（宅配・ ）

※2人で行く時や本人が購入して配達してもらう時は2個○をつけてください。

Q6：どこに買い物に行きますか？また、トイレットペーパー等かさばるもの、重いものはどうしていますか？

OK（ふれあいの丘） • オリンピック • ロピア • デポ • その他（ ）
 コンビニ（店名： ） <例：セブンイレブン荏田南1丁目店 など>

Q7：日頃、掃除は誰が行いますか？ ※該当するものすべてに○をつけてください。

自分で • ヘルパー • 家族 • その他（ ）

※2人で行う場合は2個○をつけてください。

Q8：どこを掃除していますか？

本人： 家族： ヘルパー：

Q9：買い物や室内の掃除以外でこんなお手伝いがあつたらいいなと思うことはありますか？

電球の交換、話し相手、草取り、エアコン清掃、散歩の付添い、布団干し、換気扇の清掃、窓ふき、
 不用品の整理、その他（ ）

Q 1 0 : 日頃、地域のどんな方と交流がありますか？

民生委員 ・ 自治会役員 ・ 老人会の方 ・ ご近所さん ・ その他 ()

Q 1 1 : 日頃、地域のどんなところで交流がありますか？

サロン：(場所やサロン名など分かる範囲で記入)

老人会 ・ 会食会 ・ 自宅 ・ 友人宅 ・ その他 ()

Q 1 2 : 日頃、どなたと連絡を取っていますか？

家族 ・ きょうだい ・ 友人 ・ ご近所さん ・ その他 ()

Q 1 3 : Q 1 2 で回答された方はどちらにお住まいですか？ (例： 3 丁目) 回答：

Q 1 4 : お住まいの地域の行事などの情報はどこ (誰) からもらっていますか？ 回答：

Q 1 5 : 地域やマンション内で開催されている集まりがあれば名前や時間、場所などを教えてください。

(開催案内などのパンフレットや画像でも OK です。)

回答：

各位

町防災訓練のお知らせ



【合同防災訓練】

- ◆ 町町内会防災委員会
- ◆ 地域ケアプラザ
- 実地訓練：9：30 開始
- 防災講座：10：15 開始
- 終了：11：30

■開催日時：平成29年6月17日（土） 9時30分集合

■集合場所：3・4丁目境界付近・三角地帯周辺

■参加対象者： 町3丁目・4丁目の 側にお住まいの方

第3分区		第4分区	
○ 班	○ 班	○ 班	○ 班
○ 班	○ 班		
○ 班			

■訓練内容

○(水)消火器取扱訓練	参加者の方、消火器の取り扱いに習熟してください
○消火栓確認訓練	周辺地域のどこに「消火栓」があるか確認してください
○移動式簡易消火器	消火栓及び簡易消火器の操作・取り扱いを習ってください

※指導： 町消防出張所所員



◆10時20分までに移動（兼移動訓練）

地域ケアプラザ（多目的ホール）

◆防災講座

○スマート防災について	（命を守ることを優先する考え方）
○自助・近助・共助について	（大震災から命を守る準備と行動）
○防災隣組⇒支え合い・見守り体制づくり	
○「避難所」 小学校地域防災拠点運営委員会からのお知らせ	

町3・4丁目（　側）の皆さん

6月17日

新しい考え方の防災訓練です。奮ってご参加ください！

防災訓練を行いました！

6/17(土)、○○町3丁目付近の三角地帯にて防災訓練を実施しました。当日は梅雨の合間の晴天で夏のような日差しのなか、26名の参加者が消火器や消火栓の取り扱い訓練を行いました。



町内会館に保管している
移動式消火器で放水体験!!
水が届くのは最大80mです。



水消火器で初期消火訓練中!



消火栓開閉訓練の様子
かなり力が必要です…



訓練後は地域ケアプラザへ移動し、○○町防災委員会の方針や、日頃の支えあいの大切さなどについて学びました。

“命を守ること”について考える
よい機会になりました。

終了後には防災備蓄品の試食も!



A 会長と■■防災委員長の
ミニ講座



△△町消防出張所の○○所長はじめ、
★★消防団にもご協力いただきました♪

○○町では、今後も引き続き
防災訓練を行います！
いざという時のために、
ぜひご参加ください！

○○町町内会・防災委員会の方針

大震災発生時“死者0”を目指して…
『スマート防災（命を守ることを優先する防災概念）』
を基本とした支え合い・見守り体制の仕組みづくり

発行元：○○町町内会 防災委員会

○○地域ケアプラザ

(☎ - - -)

○○自治会
○○地域ケアプラザ
からのおしらせ

買い物に行っても、
重たい物を持ち帰るのは大変…

近くの店のお助け情報第一弾！ 買った商品を当日にお届け

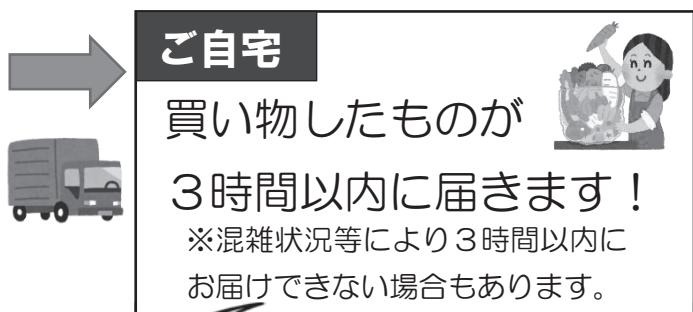
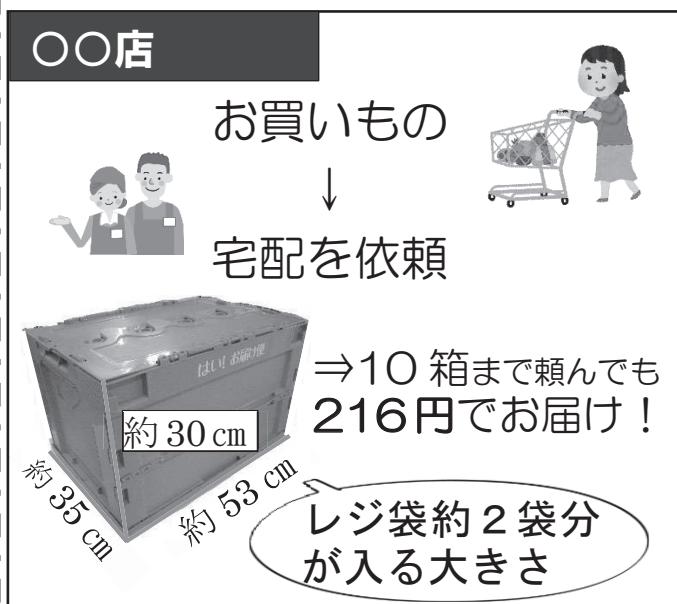
買い物でお困りの方に、何かできないか…

「○○の買い物を考える会」(※) の中で、便利な情報等をお届けし、少しでも暮らしの中でお役に立てていただければとのお声があり、このチラシを作成しました。

今回は、「○○店」さんの「当日宅配サービス」をご紹介します。今後もお役にたてる情報がありましたら第二弾としてお知らせします！

※○○の買い物を考える会とは…買い物に行くのが大変という方が多いという声から、○○の買い物について様々なお話をしながら考えてみようと立ち上がった会です。

○○店の当日宅配サービス



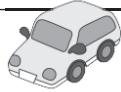
○○自治会のエリアは
全て宅配の対象です！

「当日宅配サービス」の詳しいお問い合わせは
「○○店」_____まで

①買い物に行くまでの移動について考える

現状

バス停まで行くのも坂道が大変…



前回出てきたアイディア

○乗合のようにライフまで乗せていく
ようなボランティア

○タクシー、バスなど、交通機関に協力を依頼

→高齢者は低額でバスを利用できる。



②移動・出張販売について考える

現状

食品・日用品のお店がない

前回出てきたアイディア

〇〇〇の周辺に夜に来る移動販売があるようだ。(品数豊富)

〇〇〇の手前を活用できないか。

○公園を活用できないか。



「買い物」で大切にしたいこと

- 買い物ができる場所まで行きたい
- 実際に見て品物を選びたい

③ネットスーパーの利用をしやすくすることについて考える
(〇〇ではネットスーパーを来年度の3月以降の導入に向け検討中です)

現状

ネットの利用が難しい人が多い

前回出てきたアイディア

○スマホやネットが使える若い世代が御用聞きとなり、近隣の高齢者の代わりに注文するというはどうか。スマホの使い方を覚えたい方には教える。
→高齢者の見守りにもつながる。



④本当に必要なやり方は何かについて考える

現状

利用しやすい買い物はどのような手段かをいろんな方に聞いてみたい。

前回出てきたアイディア

○購買力の調査



< 買い物に関するアンケート調査 >

参考資料⑦

該当するものを○で囲んでください。

Q1, 年齢をお聞かせください。

- ①10代 ②20代 ③30代 ④40代 ⑤50代 ⑥60代 ⑦70代 ⑧80代以上

Q2, 世帯状況をお聞かせください。

- ①単身世帯 ②夫婦のみ世帯 ③親とその子ども世帯 ④多世代世帯 ⑤その他

Q3, お住まいの地区名をお聞かせください。

(1 · 2 · 3 · 5 · 6 · 7 · 8 · 9 · 10 · 11) 地区

Q4, お住まいの町名をお聞かせください。

- ①〇〇〇 ②〇〇丁目 ③〇〇丁目 ④〇〇丁目 ⑤〇〇 ⑥〇〇

Q5, 普段どこでよく買い物をされますか? (複数回答可)

- ①〇〇駅周辺 ②〇〇駅周辺 ③〇〇駅周辺 ④〇〇
⑤〇〇店 ⑥〇〇店 ⑦〇〇店 ⑧〇〇スーパー ⑨コンビニ
⑩近所の朝市 ⑪移動販売 ⑫宅配 ⑬その他 ()

Q6, 主な買い物の手段は何ですか?

- ①徒歩 ②自転車 ③自家用車 ④バス ⑤身内や隣人に依頼
⑥ヘルパーや買い物サービス等に依頼 ⑦その他 ()

Q7, 「買い物」で困っていることは何かお聞かせください。 (複数回答可)

- ①重いものが持てない ②歩くことが困難 ③近くにお店がない
④坂道や階段が大変 ⑤頼む人がいない ⑥交通が不便
⑦困っていることはない ⑧その他 ()

Q8, 身近で買い物ができないと困る商品は何ですか? (複数回答可)

- ①米 ②野菜 ③牛乳 ④豆腐類 ⑤肉類 ⑥魚類 ⑦惣菜 ⑧飲料
⑨日用雑貨 ⑩その他 ()

Q9, 「買い物」であつたら良いと思うことをお聞かせください。 (複数回答可)

- ①自宅とお店をつなぐ送迎バスがあると良い
②移動販売車が家の近くに来て買い物ができると良い
③ネットスーパー (パソコン等) の利用のお手伝いをしてくれる人がいると良い
④その他 ()

その他ご意見ありましたらご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

○○自治会のみなさまへ

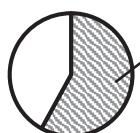
○○自治会
○○地域ケアプラザ
○○の「買い物」を考える会

買い物アンケートの結果

買い物に行くのが大変という方が多いという声から、○○の買い物について様々なお話をしながら考えてみようと立ち上がった○○の「買い物」を考える会。

今回は、今年の4月に実施した「買い物に関するアンケート調査」の結果をお伝えします。

※回収率 46.2%（アンケート回答数 1296 枚／配布数 2800 枚）



58%

買い物に困っている人



回答者の中で

困っている人が多い地域

○○

丁目

在住の約 80% の方が困っています

困っている
理由
ベスト3

1 坂道や階段が大変

4人に1人が
困っています！

2 重いものが持てない

特に高齢者が
困っています！

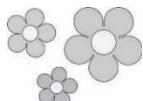
3 近くにお店がない

主なご意見やご提案

- 今のところ不自由は感じていないが、数年後には必要になってくる。
- 徒歩で行けるお店がない。子どもが小さくて荷物が大変。
- 農家さんのまだ多い○○地区でこそできる直売所などで地元とのふれあいを。
- 土日とかに市場があると楽しいし、便利。コミュニケーションの場にもなる。

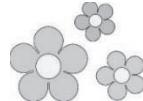
- * - * - * - * - **ご協力ありがとうございました** - * - * - * - *

アンケートの結果をふまえ、具体的な取り組みに向け何ができるか進めています！



* ○○の「買い物を考える会」にご参加を希望される方は

○○地域ケアプラザ（ - - - ）までご連絡ください。



[買い物ツアー]お試し参加希望調査票

●●担当民生委員

買物ツアーお試し内容

1. 買い物先 ○○店(○○○○○○前)
 - ・店内販売品目は別紙を参照してください
 - ・現金支払い
 2. 対象者 買い物に困っている方
事前に申込みをする
 3. 自宅から○○店まで送迎する
一回につき3~4人(ピストンで何回か運行する)
 4. 試験的開催日時
申込の反応をみてから曜日や回数を決める

担当民生委員名

「ゆりの木サロンの開店です」

Cマンション自治会 民生児童委員

7番館・集会室前に「ゆりの木」の若木が植えられているのをご存じですか？すくすく伸びて花も咲かせます。その名前から大人のための集いの場所「ゆりの木サロン」を開店します

誰かとおしゃべりしたいな、お茶飲み仲間がほしいな、趣味仲間が集える場所があつたら、私を知ってくれる人がいたら、
**そんな想いをのせてシニアのためのサロンをつくりました
 男性ナイスシニアも大歓迎！気軽に集まれる場所づくりです。
 友達づくりのきっかけをお手伝いします。**

まずはドアを開けてお出かけください！

**みんなの想いでサロンをもり上げてください
 参加がボランティアの第一歩！**

開店日時と場所（予定）

	開店日		開店日
第1回	6月20日（火曜日）	第5回	10月17日（火曜日）
第2回	7月18日（火曜日）	第6回	11月21日（火曜日）
第3回	8月15日（火曜日）	第7回	12月19日（火曜日）
第4回	9月19日（火曜日）		

**原則 7番館集会室にて、13時より開店です
 毎月掲示をしますのでご覧ください。**

ゆりの木 サロン

by Yoshio

今月は、9月19日(火)13:00 開店(7番館集会室)

13:00～14:00 ゆりの木サロン通常営業

(文庫や数独をご用意しています。
おしゃべりだけも大歓迎！)

14:00～16:00 イベント“男でいカフェ”開催

飲 男でいカフェ
14:00～16:00

申し込みの必要なイベントです。

○○区地域づくり大학교で学んだお仲間が
地域につながる移動カフェ「男でいカフェ」を立ち上げました。
男性スタッフの皆さんから《おいしいコーヒーの淹れ方》を教えて
いただきながら、秋色の午後のひとときを語り合いませんか。
男女問わずご参加いただけますが、男性のご参加大歓迎です！



家庭ができるおいしいコーヒー淹れ方体験！！

- 1, 蒸らし体験
- 2, おいしい一杯体験
- 3, コーヒー外交 ~おしゃべりの時間~

参加費:150円(コーヒ一代・お菓子つき)
人 数:先着 30名



参加希望の方は申込書にご記入の上、3番館フロント自治会ポストへ投函してください。

※申込書は、3番館フロントにございます。

締め切りは、9月10日です。
人数に限りがありますので、お早めにお申込を！

Cマンション自治会 民生児童委員

ご利用者の安全・自分自身の身体を守る

介護技術の勉強会

ボディメカニクス
って何？？

私の介護技術って、
間違ってない？？

体に負担の少ない介護
技術を学びたい！！

そんな方はいませんか？？？

本勉強会は、これまで実施してきた介護技術を確認し、課題を発見しながら技術向上・サービスの質の向上を目指すことを目的として篠原地区デイサービス等職員交流会メンバーで企画しました😊

介護の基礎を学ぶことが、ご利用者の安全とともに腰痛予防や事故予防等、自分を守ることにもつながります♪ぜひ一緒に学びましょう♪

内 容：①「介護」とは

②移動・移乗介助

※グループに分かれてワークショップ形式で実施。

日 時：平成29年6月16日（金）18：30～19：45

場 所：○○地域ケアプラザ デイルーム

対 象：○○地区周辺デイサービス常勤、非常勤職員

※新任の方～ベテランの方までどなたでもご参加ください😊

講 師：（社）横浜市社会福祉協議会 △△地域ケアプラザ
通所介護 生活相談員 佐○弘○ 氏

申込方法：裏面の申込書を下記問い合わせ先までお送りください。

参加
無料

★問い合わせ先★

横浜市○○地域ケアプラザ 担当：○田・○本
〒×××-××× 横浜市××区○○×-××-××

T E L : 045-×××-××× F A X : 045-×××-×××



主催：○○地区デイサービス等職員交流会メンバー

地域ケアプラザ

自治会 ヒアリングシート

実施日 (平成 年 月 日 () : ~ :)

団体名 ()

参加者 ()

①自治会役員

任期 :

自治会長		防犯指導員	
副自治会長		消費生活推進員	
民生委員		消防団	
保健活動推進員		交通安全協会	
スポーツ活動推進員			
青少年指導員			
家庭防災委員			

②自治会の基礎データ

人口 (人) 世帯数 (世帯)

自治会加入率 (%)

班編成 (班 (数) / 班長の役割)

定例会 (内容)

状況



③自治会内の行事

種別	名称	開催日/頻度/場所	内容
高齢			
障害			
子ども			
全世代			

アンケート

性別 : 男性 女性

年齢 : 65 歳未満 65~74 歳 75~84 歳 85~94 歳 95 歳以上

Q1. お住まいの地域はどちらですか。

○○○区(町)

※○○にお住まいの方は○丁目までご記入をお願いします。

Q2. 現在の世帯について

単身 高齢者夫婦 未婚の子と同居 二世代 三世代 その他()

Q3. 要介護度について

要支援1 要支援2 要介護1 要介護2

Q4-1. 訪問介護（ヘルパー）を利用していますか

はい いいえ

→はいと答えた方は 4-2 へ

Q4-2. 訪問介護（ヘルパー）の利用目的を教えてください (複数回答可)

身体介護（入浴・排泄介助・清拭等） 掃除 買い物 調理 洗濯

ごみ出し ごみの分別 見守り 会話 外出 家族の負担軽減

その他()

Q5-1. 通所介護（デイサービス）を利用していますか

はい いいえ

→はいと答えた方は 5-2 へ

Q5-2. 通所介護（デイサービス）の利用目的を教えてください (複数回答可)

入浴 運動・リハビリ 食事 交流 趣味活動 外出の機会

家族の負担軽減 認知症予防 その他()

裏面もお願いします→

健康長寿のまちづくり・アンケート (Vo.)

~ 健康長寿日本一を目指して ~

〇〇区では、健康長寿のまちづくりを推進しています。〇〇地域ケアプラザでも、みなさまがいくつになつても健康な生活を送れるよう施設内また各地域での健康づくりを進めています。
みなさまのご意見をお聞きしたく、お手数ですが以下のアンケートにご協力お願ひいたします。

* 該当するものに○をおつけください。

1. 性別 ①男性 ②女性

2. 年代 ①50代 ②60代 ③70代 ④80代 ⑤90代以上

3. お住い ①○○○ ②○○○ ③○○○ ④○○○ ⑤○○○
 ⑥○○○ ⑦○○○ ⑧その他()

4. 日頃どのような健康づくりをされていますか * ○はいくつでも可

①1人でウォーキング

②自宅でストレッチ・体操等

③スポーツジム (ジム名: _____ 頻度: 週_____回程度)

④友人や配偶者等と外出 ex. 映画・買い物、ランチ等 (頻度: 月_____回程度)

⑤趣味やサークル活動に参加 (場所: _____ 頻度: 月_____回程度)

⑥地域の自治会町内会活動に参加

⑦地域で行われているサロンや老人会活動に参加

⑧ボランティア活動を行っている

(内容: _____ 頻度: 月_____回程度)

(内容: _____ 頻度: 月_____回程度)

(内容: _____ 頻度: 月_____回程度)

⑨その他()

5. 現在行っている健康づくりは、自身の健康維持・向上に十分だと思いますか。

①少ない(増やした方が良い) ②現状で十分 ③多すぎる(減らしたい)

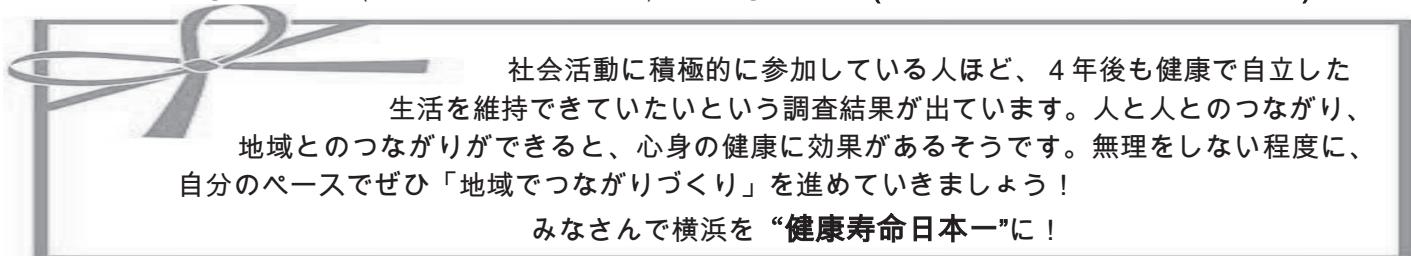


➡ (_____ を減らしたい)

6. 今後、どのような健康づくりをしてみたいですか。 * 設問5.で①と回答した方のみ

①個人で健康づくり (設問4-①～③のような活動) ②趣味活動 (設問4-④～⑤のような活動)

③地域活動 (設問4-⑥～⑧のような活動) ④その他()



おわりに

国の動向では近年、社会福祉法の改正があり、「地域における公益的な取組」の実施に関する責務規定が創設されました。これは社会福祉法人がその地域の一員となり、社会福祉法人の強みを活かして、地域課題を解決する主体のひとつであることが確認されています。

そして同年、国は「我が事・丸ごと 地域共生社会」実現本部を立ち上げ、地域福祉の推進の理念として、支援を必要とする住民（世帯）が抱える多様で複合的な地域生活課題について、住民や福祉関係者による①把握及び②関係機関との連携などによる解決が図られることを目指す旨が示されています。

横浜市では生活支援体制整備事業が目指す地域の姿として「高齢者が、自分でできることは自分で行いながら、住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、多様な主体による重層的な生活支援の機会がある」「高齢者が、孤立することなく、生きがいや役割を持って、自分らしく暮らし続けられるよう、様々な介護予防・社会参加の機会がある」としています。

地域ケアプラザでは上記の目指す地域の姿に向かって、2層生活支援コーディネーターが中心に進めている生活支援体制整備事業ですが、地域包括支援センターをはじめとするケアプラザ内の多職種連携や、1層生活支援コーディネーターや行政、関係機関は勿論、地域のあらゆる資源や“つながり”なくしては、目指す姿が実現できない事業です。

生活支援体制整備事業をはじめとする、上記の事業や方針はいずれも、地域主体による地域課題解決を目指しており、その本質は“地域づくり”です。私たち横浜市の2層生活支援コーディネーターも“地域づくり”を推進する一人の専門職として、さらなる発展を目指していきたいと思います。

平成 30 年 3 月 発行

発 行 社会福祉法人 横浜市社会福祉協議会
第 2 層生活支援コーディネーター連絡会

〒231-8482

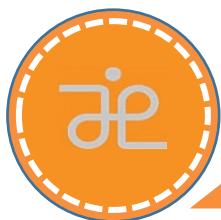
神奈川県横浜市中区桜木町 1-1

横浜市健康福祉総合センター 7 階

(社会福祉部 施設管理担当)

TEL : 045-201-2053 FAX : 045-201-1661

<http://www.yokohamashakyo.jp>



第 2 層生活支援コーディネーター活動事例集